

趣旨説明

北村尚浩*

本日のテーマはスポーツを通じた地域振興です。人々とスポーツとの関わりを見た場合に、スポーツを行なうこと自体が目的でスポーツに関わる目的的にスポーツに参加する、関わるという関わり方と、スポーツを行なうことによって付加価値であるとか、波及効果ですとか、そういったことを目的としてスポーツに関わる手段的な関わりがあると思います。本日扱うテーマは、スポーツを手段的に扱っていくというそちらにあたります。スポーツ基本法が昨年制定されております。それ以前は1964年の東京オリンピックを契機としたスポーツ振興法に基づくスポーツ振興がなされてきたわけですが、ようやく日本のスポーツ政策も転換期を迎えたと言っていると思います。そしてこのスポーツ基本法の中には、従前のスポーツ振興法にはなかった前文というのが加えられていまして、その中に、スポーツがもたらす様々な社会的効果について言及されています。人々の交流であるとか地域との交流を促進する、地域の一体感や活力を養成する、地域社会の再生に寄与する、健康で活力に満ちた長寿社会の実現、国民経済の発展、国際平和に大きく貢献等と挙げられています。先程申しましたように、これはもうスポーツを手段として位置付け、スポーツを通してこういったことは達成可能だということをこの中で謳い、そしてこういったことを目指していくというような法律でございまして、そして、この様々な社会的効果を実現していくためにスポーツ振興基本計画が定められ、当面の間、概ね5年間というような言い方をしておりますけれども、日本のスポーツ政策の方向性というものが具体的に定められました。ポイントはいくつかあるんですけども、今回の会議では地域の活性化という視点から今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むこととしまして、ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進、そしてコミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成推進といったところから、スポーツツーリズムの推進によるスポーツ機会の向上、各地域の実情に応じたきめ細やかな総合型クラブの育成促進とい

うところに、着目をいたしました。総合型クラブの育成につきましては、文部科学省のスポーツ振興政策の中では大きな柱の1つと言え、これまで本協力者会議でもテーマとして取り上げてまいりました。またスポーツツーリズムにつきましては、社会経済的なインパクトの大きさから近年注目を集めております。観光庁の方もスポーツツーリズム推進基本方針を出して、スポーツを通して観光の活性化、ひいては地域経済、日本経済の活性化を図っていくというスタンスを取っております。スポーツツーリズム推進基本方針の中でスポーツ立国戦略とも協調してスポーツ振興を図っていくということを謳っております。そして様々な効果が期待されているということで、このスポーツツーリズムが非常に今大きく注目を浴びております。

こうしたことを踏まえまして、事例としては、鹿児島県で地域活性化とスポーツと言いますと、いぶすき菜の花マラソンが代表的な例ではないかと思っております。30回を超える大会ですけども、参加者2万人に迫ろうという勢いでございます。第1回の大会は360数名の参加だったかと思うんですが、非常に小さな規模で行われた指宿温泉マラソン大会という、こじんまりとした大会だったんですけども、今や2万人に迫る勢い。参加者が増えすぎていて、10kmのコースを廃止にしてフルマラソンだけにしたんですけども、まだ増えている。参加費は4,500円ということですので、単純に参加費だけ計算をしましても参加者2万人ということは、それでも9千万円ぐらいの金に参加費として入ってくるという。少し古い試算ですが、日本銀行の鹿児島支店がこの菜の花マラソンの経済効果というのを試算しておりまして、10年ぐらい前の試算ですが、当時8億円の経済効果があるだろうということを言っております。確かにこの非常に大きな経済的なインパクトを与えるわけなんですけども、現在この菜の花マラソンは規模が大きくなりすぎて様々な問題を抱えているようでして、少しこの参加者の数を絞った方がいいのではないかというような話も出ているようです。こう

*鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター長

いったマラソンのイベントが、たまたま1週間程前にネットの読売新聞のサイトで、そのマラソン大会運営の手腕に差がどうもあるようで、場所によっては巨額な赤字が出ていて、公金で穴埋めをしているようなところもあるというような報道がなされておりました。この中では民間の手法をうまく使えばマラソン大会が赤字になるようなことは避けられるんじゃないかということも書かれているんですけども、スポーツの振興、地域の振興という形でマラソン大会は多くのところで開催されていると思います。

鹿屋市こちらは広報から持ってきたんですけども、鹿屋市も本学と連携をしましてスポーツ合宿まちづくり推進事業というのを行っております。本年度が3年目だったと思うのですが、プロ野球の選手達を招きまして自主トレを鹿屋でやっていただいて、その合間で子供達のスポーツ教室等々をやってもらって地域のスポーツを振興していこうという、そういった取り組みを行っております。これも広い見方をすると、スポーツツーリズムの一端に入ってくるものです。これに限らずスポーツ合宿等の受け入れというのもツーリズムという視点から見ると、地域に与えるインパクトは小さくはないということでございます。

こういったことを踏まえまして、地域の自治体、それから地域で草の根的にスポーツ活動の推進を行っている総合型地域スポーツクラブだとか、それから先程マラソンの話をしましたけども、そういったイベントをプロモーション、スポーツイベントを仕掛けていって地域を活性化していく、あるいはイベントを仕掛けてスポーツツーリズムに結びつけていくとか、そういったそれぞれのところと生涯スポーツ実践センターとの連携の可能性というのはいかならないかなというようなことから、今回このような会議を設定するに至りました。

今日は3名の発表者の方とお1人コメンテーターの方をお招きしております。簡単にご紹介させていただきます。NPO法人SCCから太田敬介さんに来ていただきました。太田さんは鹿児島市で総合型地域スポーツクラブの運営に取り組んでいらっしゃって、現在はかけっこのレベルからそろそろ世界に届くレベルぐらいの選手が出るんじゃないかというようなクラブを理事長として運営をされております。次に川前真一さん、スポーツアンドリンクシェア株式会社から来ていただきました。川前さんは昨年の9月、桜島で桜島リレーマラソン大会というのを仕掛けて始められまして、新

しいスポーツイベントを民間の立場で運営されています。そして今年度は更に桜島だけではなく鹿児島県内に何ヶ所か広げていこうというようなことで、民間の力を使いながら、それでスポーツを使いながら、鹿児島の活性化に取り組んでおられる。そういった立場からお話しをいただきたいと思っています。それから薩摩川内市企画政策部から山下真司さんにお越しいただきました。薩摩川内市はスポーツで言いますと、非常に立派な施設をお持ちですので、そのスポーツの合宿の受け入れ等をされております。それから今回山下さんは甑島の離島振興というところから今日お話しをしていただくんですが、たまたま昨年、本学の方から甑島を使って少し事業をさせていただいた。それが離島振興に繋がるような形になればいいなという思いもありまして、その離島振興という視点からお話しをいただきたいと思っています。そしてコメンテーターとしまして福島大学の教授、NPO法人クラブネットという団体の理事長も務めていらっしゃる黒須充先生にお越しいただきました。黒須先生は文部科学省の様々な総合型地域スポーツクラブに関する委員会の委員であるとか、それから中教審の委員もお勤めになっておりますので、ご専門的な立場から、それぞれの発表、事例発表等に対してコメントをいただきたいと考えております。こういった方達から今日発表をいただきまして、センターとそれから総合型を含めた地域、あるいは民間の皆さんと協力しつつ、地域でのスポーツを通しての地域の活性化というところに何か新たな視点ですとか、協力できる体制が見つければいいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。